

今月最初の例会を次の通り開催致しました。

- 日時 6月18日(日) Pm2:00~ 5:30
- メンバー 山路、新木、大和 敬称略 丸山(一)
- スコアです。(半荘 2.5)

	大和	丸山	山路	新木
1回目	18	-2	-3	-13
2回目	-38	13	38	-13
3回目	-10	-1	20	-9 (東場のみ)

-----  
-30 10 55 -35

特記事項です。

ド派手な歓声上がるような上がり手はありません

で、地味な感じで淡々と進行しました。

初回は大和さんが引き続き好調さを維持してたかに見えましたが、2回目に入ると山路さんの怒涛の寄り身にそれまで。自他ともに許す実力者の新木さんも、圧倒されご覧のスコアに終わりました。

地味な上がり手と言っても、あまり見ない手はありました。スタートから流れが続き7本も積んだことや、山路さんのあわや四暗刻という三暗刻、出来上がり。一気通貫の単騎待ちのダマテンツモ。山路さんがリーチ、その後丸山がリーチ、運悪く新木さんの捨て牌で二人がロン。丸山が優先山路さんがつくり。終ってみれば山路さんデーの感がする楽しい一日でした。懇親会は無しで解散しました。場代は2310、ビールは660

特記事項のおまけ。

お終ってから丸山が演奏会のチラシをママさんに渡し、他のお客さんに見えるところに貼ってくれるよう頼みま



した。チラシを見たママさん、あれっ「サリーさんがいる」と声を上げました。聞けばママさん昔横浜でサラというライブハウスのママをしていた由、よく知っているそうです。長年日本丸男声合唱団の演奏会で伴奏をしてくれているんですよと話しました。意外な縁があるものですね。 以上 丸山(一)、山路 記

麻雀部会報告

東前頭 16 枚目

T2 二村修

6月30日金曜日、雨雲の合間を縫って聖地となりつつあるプリンスに集まった4名。丸山一義麻雀部長、丸山隆男副団長、鶴野事務局長、そして私 東前頭 16 枚目二村です。定演に向

けて必死に暗譜中の私にとって、プリンスというとい口に出るのが”One was the Prince o’ Luther and the other the Prince o’ Wales “ の一節。パイレーツを沈めるような意気込みで美味しいビールを沢山呑もう、と乗り込みました。

結果はこの表の通り。

	第1戦	第2戦	計
Kaz さん	+37	-7	+30
Taka さん	-35	+3	-32
Tsuru さん	+2	-23	-21
Nim	-4	+27	+23

第1戦目は、Taka さんから Kaz さんへ、幾度か振込みがなされ、Taka さんがリーチをする際には「少しは返してくださいよ」との懇願もありました。がその声空しく、最後まで Taka さんから Kaz さんへの満貫放銃でハコテン、終了となりました。

そして第2戦、辛くも私が逆転勝ちしたのですが、そこには、私にとっては一瞬足りとも気を抜くことができない、そうあのワールドカップで栗山監督が味わったようなドラマがありました。

東場は大きな見せ場がなく進みます。私は南1局を終えて、かろうじて3万点をキープ。ノーテン罰符にこだわって海底(ハイテイ=最終牌)直前に鳴いて聴牌(テンパイ)の形を整えたり、1,000点上がりですれまでに溜まったリーチ棒をかすめたり、とホント爪に火を点すような苦勞で、何とかトップを狙える位置につけました。

南2局、場は大きく動きます。親の Tsuru さんが11巡目でリーチ。一気に挽回、逆転を狙うという事務局長の意地を感じます。この日の麻雀は誰かがリーチをかけると、皆さんかなり慎重に手を回すので他家からの振込みは期待できません。Tsuru さんも「どうせ出ないだろうから、ツモ狙いだった」と後述しています。そのリーチに敢然と立ち向かったのがもう親がない Taka さん。南をポンし、なおさらポンしていた中をもう一枚引きなんと明槓(カン)。親のリーチに対してドラを増やすという強気な攻めに出ます。

この息詰まる熱戦を制したのは、気力に勝る Taka さんでした。Tsuru さんの捨てた⑤筒で混一(ホンイツ)の満貫です。実は、この時 Tsuru さんはリーチタンヤオー一盃口ドライチの満貫手、なおさら Taka さんが乗せたドラのウラが2枚乗りましたので、上がっていたら親のハネ満というところでした。ホッ!

次の南3局の私の親は、Tsuru さんの混一(ほんいつ)に放銃。しまった!と思いましたが、幸い2,000点で済み、首の皮が繋がります。

そして最終南4局、Kaz さんの親を迎えます。実はこのプリンスの賢い雀卓、喋ります。「最終局を迎えました、皆さん頑張ってください」と。すると、皆さん口々に「言われなくても頑張っ

るよ」とぼっそりおっしゃるんですね(笑)。カーナビの話す言葉に反応して応えてしまう私は、家族に「話してくれる人がいなくてホント寂しいのね」とからかわれますが、ここにいらっしゃる皆さんも同じような境遇でいらっしゃったのかと、親近感が高まるひと時でした。

勝負に戻ります。この時点でトップ Takaさんと私の差は3,000点。ここは絶対に逆転だと、集中力を高めます。そうワールドカップの準決勝で3点差で終盤を迎えようとしている、あの時の心境です。一手一手にミスは許されません。で最短の聴牌(テンパイ)を目指す、リーチドラ1が見えてきました。しかしそれでは2,600点止まり。ウラドラが乗るか、ツモるか、あるいはTakaさんからの放銃があれば、ということですがそれも心もとない。そこに舞い込んできたのが2索、手の内に3枚ある牌です。予想もしない展開に運を感じ、暗槓(カン)をするとドラが1枚乗り5,200点確定。ここでリーチ。しかし、皆さんの固い麻雀に当たり牌は出ず、やはり流局してしまいました。しかしこの時点で、Takaさんと私は、34,000点で全く同点に並びました。

南2局1本場。ここでまた「最終局を迎えました、皆さん頑張ってください」の優しい声。でも皆さん「頑張ってるって言うのだろ！」と少し厳し目の声。やっぱり会話は成り立っているようです。勝負の話に戻ります。どちらか上がった方が勝ち、という緊迫感が漂うなか、私はピンしか望めない手。鳴かずに手を進めますが一向聴(イーシャンテン)まで来たところでTakaさんがリーチ。万事休すかというところ、半降り状態で回すTsuruさんが捨てた安全牌の①筒を、私がチー。次の順に



南場最終局の逆転の鳴き三色

Tsuruさんが手にしたのはやはりTakaさんには安全牌の五萬。私の①筒鳴きに「何で？」と疑問をもたれたようですが、その五萬で、私がロン。私の上がり手は、「鳴き三色」という渋い手で1,000点。Tsuruさんから「9回の裏2アウトでのセフティスクイズのような勝ち方だ」とお褒め？の言葉を頂きました。結果、しぶとくトップ賞を頂き、合計ではKaz麻雀部長には及ばなかったものの、エキサイティングで楽しい1日でした。なお、この日は満貫を一度も上げることができず、ビールを1杯も呑めていません。この粘り強さを活かして、定演への練習も頑張りたいと思います！



二村 記

## 高野山でボタニーベイ

## B2 山路 永司

1年前の7月に88番札所大窪寺に到達し、10月に再び1番札所霊山寺まで歩いた続きとして、5月に高野山まで歩いてきました。

北の麓から高野山へは三つの道があります。東の黒河道、西の町石道、さらに西の三谷坂、これは町石道に合流します。で自分が選んだのは、三谷坂・町石道ルート。

まずは丹生酒殿神社に参拝し、本日の安全を祈願。登りの道には、笠石、経文岩、涙石などがあり、それぞれ謂れが書いてあります。町石道に合流する六本杉で小休止してたところ、町石道本流から登ってきた女性、休みもせず歩き続けます。若さですね、二度と追いつけませんでした。

白蛇岩の先、突然に13番ホールティーグラウンド、池越えの緊張するホール。え、なんでここにゴルフ場。しばらくはゴルフ場との境界の道を歩きました。山道から一般道に出ると矢立茶屋。最後の登りの前に一息つくところ。弘法大師がここで矢立を開き日誌を書いたんだそうです。

さあ、あと登り200メートル。一町(109m)ごとの石をペースメーカーにしますが、ところどころ欠けています。文字も昔の行書もあれば、最近据えられた楷書もありました。ぜいぜい歩いて最後の急登を経て大門到着。立派な門。

金堂、根本大塔を経て、金剛峯寺で半年ぶりに般若心経を唱え御朱印。さらに奥の院まで行って拝んで御朱印。

奥の院まで大急ぎで行ったのは、潜水艦イ34号の慰霊塔を探すため。ネット情報でその存在は確認できましたが、場所情報はなし。納経所の方は業務仕舞いの多忙の中、親切に対応してくれ、細かな地図から見つけ出してくれました。

その近くまで行って、探して、戻って、行って、探して、ようやく見つけました。岡本さんのお父上がこの潜水艦の乗組員で、マレーシア、ペナン沖で沈没し、お骨も上がってないので、この慰霊碑だけが唯一の物理的遺物とのこと。線香を手向け祈りました。刻まれた文字は、伊號第三十四潜水艦奮戦供養。



7-8年前に遍路とは無関係に高野山に来た時は宿坊に泊まったので、今回はゲストハウスにしました。外国人が8割くらい。陽気で騒がしいアメリカ人グループ5人、やや控えめなオーストラリア人4人、など。この豪州人、シドニーというので「ボタニーベイを知ってますか」と聞いたら、「もちろん」。♪Farewell to old England forever...と歌い出したところ、小さな合唱になりました。自分が3番で詰まっても、彼らは歌い続けました。いや一縁は奇なもの。

ところで、88箇所を参ると「結願」、高野山に行くと「満願」だそうです。「満貫」ではありません、念のため。 山路 記